学校名：県立麻生支援学校

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 16 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点で小学部から高等部まで連続性・一貫性のある教育課程を編成し実践・評価・改善を図る。 ・ＩＣＴ機器等の有効活用を推進し、専門性の高い教育活動を実践する。	①教育課程と連携した児童・生徒指導について、検討と実践を行うことにより、児童生徒が主体的に地域へかかわり、貢献する力を育てる。 ②児童生徒の経験の幅が広がるＩＣＴ機器を活用した教育活動を継続し、内容を校内外に発信することにより、教育活動の充実を図る。	①年間指導計画に「外部資源の活用」を項目として位置づけることで、地域へのかかわりを意識した授業実践を計画的に行う。 ②オンラインでの交流や共同学習、日々積み上げてきたＩＣＴ機器を活用した授業について、文書やＨＰ、授業参観等による紹介を行い、活動の様子を校内外に発信する。	①教育課程と連携した児童・生徒指導について、検討と実践を行うことにより、児童生徒が主体的に地域へかかわり、貢献する力を育てることができたか。 ②児童生徒の経験の幅が広がるＩＣＴ機器を活用した教育活動を校内外に発信し、教育活動の充実を図ることができたか。	①外食を伴う校外行事では、校内で飲食体験の授業を重ね、事前学習として、近隣施設を利用し、体験授業を実施することができた。 ②コミュニケーションツールや自立活動の学習に活用できるアプリを使用した事例紹介を実施した。職員向け情報だよりを３回発行した。	①校外行事の事前学習の充実として近隣施設の利用を計画的に実施し、校外でのルールやマナーを学ぶ場として今後も利用していきたい。 ②一人１台専用端末の導入に伴い、定期的な情報発信行う。ＨＰでの情報発信とともに、☆柿祭や授業参観等、保護者等の来校機会に、情報発信する。	①保護者アンケートで肯定的評価77%。「地域の人と挨拶をかわす機会が増えるとよい。」 ②保護者アンケートで肯定的評価62%「具体的な取組みが見えるとよい。」 「ビッグマックを使っての授業は良かった。」	①校外行事の事前学習として、近隣施設で体験する授業を実施することができた。 ②コミュニケーションツールや自立活動の学習への一定の評価は得られた。保護者等への情報発信を継続して一人１台専用端末の導入と活用を進めることが課題である。	①挨拶や係活動を通して地域社会に出る学習を積み重ねる。 ①近隣施設の活用については、計画的に実施し、ルールやマナーを学ぶ場を設定する。 ②タブレット端末について、校内研究等と連携して授業案やアプリの使い方を共有する仕組みを整えて、活用実践例を積み重ねる。
2	児童・ 生徒指導・ 支援	・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた個別の指導と集団の指導両方を関連付けた授業実践、児童・生徒支援・教育相談を組織的に行う。	①-１「わかった！できた！」につながる具体的な支援の手立てを作成し、支援教育を実践する。 ①-２通学支援について、成長段階に合わせて児童生徒が自立と社会参加をめざす視点で支援を実践する。	①-１専門職と連携しての授業実践や、体験型の研修会を計画、実施し、児童生徒が意欲的に取り組み、成果を実感できる授業を実践する。 ①-２各学部における通学支援について校内で考え方を共有し、理解を深めるとともに、関係機関と協力し、安心安全な通学に必要である環境を整えて実施につなげる。	①-１「わかった！できた！」につながる具体的な支援の手立てを作成し、支援教育を実践することができたか。 ①-２通学支援について、成長段階に合わせて児童生徒が自立と社会参加をめざす視点で支援を実践することができたか。	①－１授業で行動観察を行い、支援方法について担任に伝え検討することで授業の改善、実施につなげられた。 ①-２医療的ケア児・生徒のＳＢ乗車に向けて試乗を行った。 通学支援の在り方を見直し、指導計画書を作成した。	①-１計画的な連携により、組織的、継続的に実施する。必要に応じて支援方法を学年や学部にも共有できるように努める。 ①-２　関係の教職員、看護師、保護者と引継ぎを丁寧に行う。指導計画書の新書式を使用していく。課題があれば共有し、必要に応じて改善する。	①-１保護者アンケート肯定的評価94%。学校運営協議会より「よかった点について職員での振り返りをするとよい。」 ①-２保護者より「進めるのは賛成。環境を整えて早めの対応を」 学校運営協議会より「通学支援は早い段階で指導をすすめるとよい。」	①-１保護者の評価が得られた一方、専門職との連携、研修の継続など良かった点をどのようにフィードバックしていくかが課題。 ①-２成長段階に応じた取組を実践し、指導支援を進めることができた。今後はさらに環境を整えていくことが課題。	①-１授業の実践については、児童生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業実践を進める。 ①-２医療的ケア児・生徒のＳＢ・福祉車両を利用しての登校等、各学部での通学支援について検討を重ねて、環境を整えるとともに、成長段階に応じた指導支援を進めていく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 16 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・ 支援	・一人ひとりの発達の段階に応じた進路指導・支援を行い、将来の自立と社会参加を実現するために必要な力を育成する。	①-１指導の実践により積み重ねてきたネットワークを生かし、近隣の学校や地域の方が進路指導について理解を深めることにつなげる。 ①-２保護者・教職員へ進路に関する知識や情報を積極的に発信し、よりよい進路指導につなげる。	①-１障害者を雇用している企業の協力により、地域の保護者向けに、支援学校の学びと子どもの社会参加について考える会「企業と語ろう」を開催する。 ①-２小中学部の保護者向けに授業参観等とあわせて進路学習会を設定し、今の学びと将来の自立に向けての関連性を説明する。	①-１指導の実践により積み重ねてきたネットワークを生かして進路指導について情報発信を行い、近隣の学校や地域の方が理解を深める機会を設けられたか。 ①-２保護者・教職員へ進路に関する知識や情報を積極的に発信し、よりよい進路指導につなげることができたか。	①-１職業の授業では、清掃や事務仕事の技能の習得を柱とし、挨拶、身だしなみを整える力を高めることにつながった。 ①-２自立に向けて今の学びと将来の生活との関連について、小中学部の保護者向け進路学習会で説明することができた。	①-１麻生支援学校の活動に関する周知を行うために、地域の展示会やイベントに関する情報を集め積極的に参加する。 ①-２進路学習会を早めに計画するために、来年度は年度はじめに学部と相談し、日程を決められるとよい。	①-１保護者の肯定的な意見 77%。「職業では、清掃が多く感じる。製作、販売など内容が広がるとよい。」 ①-２保護者より「小学部から進路の先生と話をする機会があるのはよい。」	①-１挨拶、身だしなみを整える力を高めることにつながった。自信や意欲を高めて自分らしい生き方を見つけるための指導内容の充実が課題。 ①-２小中学部の保護者向け進路学習会ではよい評価であった。卒業後の生活がわかる研修や見学会等により理解を深められるとよい。	①-１面談や相談を丁寧に行い、関心があること、得意なことをより多く教育活動に設定し、実践を通して児童生徒の自信や意欲を高める。 ①-２進路に関する授業、研修会、学習会、卒業後利用する施設等の見学を設定し、自分らしい生き方を見つけることへつなげていく。
4	地域等との 協働	・共生社会の実現に向け、学校と地域住民との協働による活動を展開する。	①-１地域の方や大学等と協働の活動を展開することにより、児童生徒が地域に関心を持って参加できる授業を充実させる。 ①-２支援を必要とする地域の子どもに必要な情報をまとめて、保護者等へ提供することにより、地域に根付いた学習環境を作る。	①-１近隣施設の清掃や、製品販売、作品展示等を通じて、近隣地域の方とかかわりのある活動を行う。近隣の大学や自治会と協働してイベントを実施する。 ①-２支援の必要な子どもの教育に関わる福祉や行政の地域機関マップを作成し、本校及び学校コンサルテーションに関わる学校等の情報提供を行う。	①-１地域の方や大学等と協働の活動を展開することにより、児童生徒が地域に関心を持って参加できる授業を充実させることができたか。 ①-２支援を必要とする地域の子どもに必要な情報をまとめて、保護者等へ提供することにより、地域に根付いた学習環境を作ることができたか。	①-１近隣幼稚園への訪問演奏会、アートコース発表会など、地域の方との交流により、製品作りや発表への意欲につながった。 ①-２地域の学校への訪問相談を 15 校 25 回実施し、依頼校で内容を共有することにより学校全体での取組につながった。	①-１交流を継続しながら、お互いにメリットのある活動を広げられるとよい。新たな発表の場や展示の場を少しずつ増やしていく。 ①-２中・高校からの依頼が少ないため、他の支援学校と連携しながらアプローチをしていく。保護者、地域の方の知りたい情報を調べて研修テーマや講師の検討を行う。	①-１保護者から肯定的な意見 71%「大学生との交流などさらなる開拓を」学校運営協議会より「喜んでもらえるという実践の継続が大切。」 ①-２保護者から「ニーズに合わせた情報提供をすること、活動内容をわかりやすく伝えてもらえるとよい。」	①-１地域の方との交流により、製品作りや発表への意欲につながり、評価も得られた。近隣大学との交流を広げて学びにつながるとよい。 ①-２地域の学校では、訪問相談後の内容の共有がされて学校全体での取組につながった。保護者や地域の方へ活動をわかりやすく伝えていくことが課題。	①-１近隣大学と連携し、専門性を生かした学びの取組を進める。 ①-２地域に開かれた学校として訪問相談を継続する一方、児童生徒の活動として地域での製品販売や清掃活動等を継続する。お互いにメリットがあり継続できる内容とする。
5	学校管理 学校運営	・教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①「丁寧なかかわりのスタンダード」の充実に向けての取り組みと、不祥事防止点検を計画的に行い、職員の人格的資質、専門性の向上を図る。 ②業務改善につながる提案を実現し、業務負担軽減を図る。	①「丁寧なかかわりのスタンダード」の実践について、各学部等から職員会議等で事例報告を通年で行い共有し、内容の充実を図る。 ②業務の決裁権の委譲を行い、起案文書の速やかな処理を図る。削減できる業務について確認し実現していく。	①「丁寧なかかわりのスタンダード」の実践検証と、不祥事防止点検を計画的に行い、職員の人格的資質、専門性の向上を図ることができたか。 ②業務改善につながる提案を実現し、業務負担軽減を図ることができたか。	①「児童・生徒へのていねいな関わりのスタンダード」について、各学部等の好事例を共有することで意識を高めることにつながった。 ②調理実習届について決裁者を教頭として速やかな処理につながった。	①引き続き「児童・生徒へのていねいな関わりのスタンダード」を活用していく。保護者の意見等も参考にできるとよい。 ②食形態の変更、授業参観関連の文書についても検討していく。	①保護者からの肯定的な意見 80%「ていねいな関わりについて、保護者にわかりやすく伝わるとよい。」 ②学校運営協議会より「改善はその都度ＰＤＣＡを回していくとよい。」	①「児童・生徒へのていねいな関わりのスタンダード」について、職員の意識が高まり、保護者の評価もよい。今後は保護者の意見も参考に、引き続き学校全体で取り組むことが課題。 ②決裁権の委譲の実現と、ＰＤＣＡサイクルで確実に実践につなげることが課題。	①「児童・生徒へのていねいな関わりのスタンダード」について、保護者へのお知らせ、校内掲示、ｔｅａｍｓ掲示板への掲載等を行うとともに、学部会や職員会議で共有し、意見を聞き内容の充実を図る。 ②業務改善の継続とともに、実践と振り返りを定期的に行い着実に進める。